



方面総監統率方針
任務の完遂

発行所
〒664
-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1
電話…072-(728)0001
陸上自衛隊
中部方面総監部広報室

国内における米海兵隊との実動訓練

連携強化・共同対処能力を向上

第3師団第7普通科連隊（連隊長 飯島1佐）は、平成31年2月4日（月）から15日（金）までの間、あいば野演習場で日米共同訓練を実施した。



フォレストライト02

2月4日（月）、あいば野演習場で訓練開始が行われ、両国の国旗が掲揚され、高揚するなか、日米両統裁官がそれぞれ、フォレストライトを実りある訓練にすべくと訓示を述べた。引き続き機能別訓練として、MV22オスプレイ、UH1J及びCH47による空中機動訓練及び至近距離射撃等を行った。実施部隊は、日米相互の連携を確認し、所望の成果を得た。

本訓練は、陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊がそれぞれの指揮系統に従い、作戦を実施する場合における相互連携要領を実行動により訓練し、連携強化及び共同対処能力の向上を図る事を目的として実施された。



市街地戦闘訓練



至近距離射撃



日米両国旗の掲揚

へりで消火活動 和歌山県田辺市
平成31年1月24日（木）17時18分、第37普通科連隊及び中部方面航空隊は、和歌山県田辺市より和歌山県田辺市で発生した林野火災に伴う災害派遣要請を受け、人員延べ129名、車両延べ約25両、航空機延べ約8機をもって消火活動を実施。1月25日（金）13時30分、林野火災鎮火に伴い、和歌山県知事からの撤収要請を受け、同活動を終了した。

災害派遣 林野火災に係る災害派遣

豚コレラに係る災害派遣 岐阜県・愛知県
第10師団（師団長 甲斐陸将）は、平成31年1月29日（火）、岐阜県各務原市、2月6日（水）、愛知県豊田市・岐阜県恵那市、2月14日（木）、愛知県田原市、2月19日（火）、岐阜県瑞浪市での豚コレラ発生に伴い、岐阜県及び愛知県知事からそれぞれ災害派遣要請を受け、養豚場での豚の殺処分支援等の災害派遣活動を24時間態勢で実施した。2月20日（水）、愛知県知事からの撤収要請、2月21日（木）、岐阜県知事からの撤収要請をそれぞれ受け、愛知県及び岐阜県における災害派遣活動を終了した。



CH-47による消火活動



師団長への現地説明



夜通し作業にあたる隊員

（4面に関連記事）

第10師団訓練検閲

約3,200名が集結

東富士演習場で師団規模演習

第10師団（師団長 甲斐陸将）は、平成31年2月5日（火）から2月14日（木）までの間、東富士演習場、滝ヶ原・駒門駐屯地及び同周辺において、第2次師団訓練検閲を実施した。

本検閲は、第10後方支援連隊（連隊長 齊藤1佐）、第10通信大隊（大隊長 鈴木2佐）、第10音楽隊（隊長 吉川2尉）の3個部隊に対し、総合戦闘力の最大限發揮を検閲課題として行われた。

受閲部隊は、任務遂行に必要な諸準備を整え、全の態勢で検閲に臨んだ。訓練検閲は、徒步行進に引き続き、防衛準備に移行する想定で行われた。第10後方支援連隊は、あらゆる損耗に対する柔軟な兵站活動、第10通信大隊は、各通信組織の構成・維持・運営、また、第10音楽隊は、師団指揮所の警戒及び残留住民の保護などを実施し、各受閲部隊は、積み上げた訓練の成果を最大限に發揮し、各級指揮官を核心に一致団結、統裁官要望事項である「実行の指揮監督」を全員が意識して実践し、師団の任務達成に寄与した。



残留住民の保護（第10音楽隊）



有線構成（第10通信大隊）



故障車の野外整備（第10後方支援連隊）

第14旅団訓練検閲

練成の成果を遺憾なく發揮

第14旅団（旅団長 小和瀬将補）は、平成31年1月25日（金）から30日（水）までの間、日出生台演習場において第3次旅団訓練検閲（中部方面特科隊実射検閲）を実施した。

本検閲は、「中部方面特科隊の射撃の精度及び速度を評価するとともに、その進歩向上を促す」ことを目的として戦略機動訓練後の実射検閲が行われた。統裁官は、訓練に先立ち「日頃の練成成果とその実力の全てを弾度」で証明せよ、



迅速・正確な射撃を行う中部方面特科隊



高度な射撃技術を要する高射角射撃

「新たな射撃に果敢に挑戦せよ」と要望した。検閲課題として、ヘリから観測しながら行う空中観測射撃、同時に複数の任務に対する即時射撃及び高度な技術を要する高射角による射撃などが行われた。中部方面特科隊（隊長 内野1佐）を核心に、中部方面特科隊全隊員が「一丸となり、情報・火力の連携による効果的な戦闘を行う」とともに、統裁官の要望事項に基づき、「野戦特科精神」を遺憾なく發揮し、所望の成果を得て本検閲を終了した。

方面隊対空戦闘射撃 第8高射特科群

第8高射特科群（群長 小山1佐）は、平成31年2月9日（土）から16日（土）までの間、航空自衛隊小松基地及び入間基地、金沢駐屯地等において方面隊対空戦闘訓練（総合訓練）を実施した。本訓練は、方面隊の対空戦闘能力の向上を図ることを目的として、第8高射特科群、第14高射特科隊、第3高射特科大隊、第13高射特科中隊等が訓練部隊となり、空自中部航空方面隊、陸自高射学校等の支援を受け、対空作戦に係る各種指揮統制システムを接続し、実機による対空戦闘を行い、対空戦闘に関する部隊の連携及び航空自衛隊との連携要領について演練した。



訓練を受け、対空作戦に係る各種指揮統制システムを接続し、実機による対空戦闘を行い、対空戦闘に関する部隊の連携及び航空自衛隊との連携要領について演練した。

山崎陸幕長（美保分屯地）初度視察



担当者から説明を受ける山崎陸幕長



隊員を激励する山崎陸幕長

山崎陸幕長は、平成31年2月18日（月）、19日（火）美保分屯地及び空自美保基地を視察した。幹部挨拶、状況報告及び部隊の現況を確認された陸幕長は、昨年4月に新編された美保分屯地において、新隊舎及びヘリ格納庫などを重点的に視察され、担当者からCH-47の運用や器材等の説明を受けるとともに、各級指揮官及び隊員を激励し、美保分屯地の視察は終了した。

自治体防災等担当者との情報・意見交換会

(公財) ひょうご 震災記念21世紀研究機構理事 長
五百旗頭真先生による講話
以降、政府として自治体に対しより積極的に支援を行っていく態勢に移行しつつあり、自衛隊としてもこれまで以上に現場の支援ニーズの把握に努めるとともに、具体的な支援内容を自治体等に対し提案していく意識と姿勢を保持していくことが大切である」と述べた。

国民保護検討会では、内閣官房と消防庁から講師を招き、約1時間の講義を実施し、国民保護法制及び有事における自治体の位置づけ等について講話した。

災害派遣検討会では、平成30年7月豪雨における被害状況や災害時の取組みについて各自治体から活動等を発表してもらうとともに、近年の災害時における問題点や自治体と自衛隊の連携のあり方等について活発な情報・意見交換を図った。また、総監講話では、「平成28年の「熊本地震」



五百旗頭真先生による講話



防災担当者との情報・意見交換会

総監部隊視察

和歌山・祝園・防府・米子・美保駐(分)屯地・奈良地本・鳥取地本(隠岐の島駐在事務所)

中部方面総監は、平成31年1月30日(水)、31日(木)に祝園分屯地、奈良地本及び和歌山駐屯地、2月5日(火)、防府分屯地、2月18日(月)、19日(火)及び20日(水)には米子駐屯地、美保分屯地及び鳥根地方協力本部(隠岐の島駐在事務所)を視察した。各部隊等において、幹部挨拶、状況報告を受けるとともに、隊内巡視及び主要幹部との懇談で部隊の実情等を把握した。また、各駐(分)屯地等の視察においては、隊員の生の声を聞きながら隊員を激励するとともに、各級指揮官及び全隊員に対し、統率方針及び各部隊等の特性に応じた要望事項等について訓示し、部隊視察は終了した。



訓示(祝園分屯地)



米子駐屯地



防府分屯地



和歌山駐屯地



奈良地本

第13旅団

海田市でメディアアトラレニング

中部方面総監部は、平成31年2月14日(木)第13旅団(旅団長 山根将補)に対し、メディアアトラレニングを実施した。訓練では、あいば野演習場へ移動中の大型車両が民家に衝突、隊員が死亡する事案が発生した想定で行なわれ、旅団長以下、旅団司令官が一体となり本訓練に参加して事故対処要領を演練した。専門業者による実際の演練と訓練終了後速やかに行なわれた講義により、報道対応上の各種教訓を得た。また、記者会見は、旅団長自らが実施するとともに、会見終了後は専門業者より講評(個別レビュー)が行われた。



記者会見

女性活躍・ワークライフバランス推進集合訓練

中部方面隊は、平成31年2月21日(木)に伊丹駐屯地で実施された「女性活躍・ワークライフバランス推進集合訓練」に参加した。本訓練は、陸上幕僚監部人事教育部の施策で、陸上自衛隊における女性活躍とワークライフバランスに対する理解促進及び意識啓発を図ることを目的として行われた。ワークライフバランス推進のための取組みでは、管理職員や人事担当者等に対し、部外有識者による講話が行われた。また、上級部隊より施策説明及び部隊における女性の活躍推進の現況等に関する意見交換が実施された。



ファザーリング・ジャパン関西ライフプランナー 佐伯忠史氏

千里眼

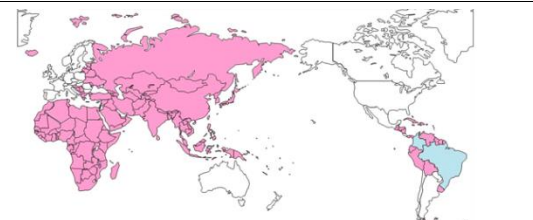
「豚コレラの概要について」

豚コレラとは、豚コレラウイルスにより起こる豚、いのししの熱性伝染病で、強い感染力と高い致死率が特徴。感染豚は唾液、涙、糞尿中にウイルスを排泄し、接触等により感染が拡大する。治療法は無く、発生した場合の家畜業界への影響が甚大であることから、家畜伝染病に指定されている。

我が国では、昨年9月、26年振りに発生が確認されているが、それ以前の我が国における本病の発生状況と清浄化への取り組みについては次の通りである。

本病は、明治20年末の北海道における発生が日本最初の発生と見なされているが、その後、国内各地で発生し、大きな被害をもたらしてきた。そして時を経て、昭和44年に弱毒生ワクチンが開発され、組織的なワクチン接種により、発生は激減。平成4年の発生を最後に、平成5年に以降発生がないことから、養豚先進国と同様にワクチンを用いない防疫体制の確立による清浄化を目指し、平成8年より対策を開始。平成19年4月1日、ワクチン接種の全面中止より19年が経過し、豚コレラ清浄国※として国際獣疫事務局に報告している。ワクチンを使用することも豚肉の輸出が困難になり、清浄国への復帰にも時間を要することから、当面、防疫体制の強化によって封じ込めを図る模様である。

その他、名称が似ているが全く別の病気であるアフリカ豚コレラについても、昨年夏から中国で蔓延し、日本各地の空港でも観光客の手荷物等から確認されていることから、注意が必要である。



豚コレラの発生状況(2018年9月 農水省)
凡例
ピンク：豚コレラ非清浄国
水色：豚コレラ清浄地域を含む国
白色：豚コレラ清浄国
※ 豚コレラ清浄国：豚コレラが発生していない、またはワクチン接種によって撲滅された国

ふあみさぽ通信(連載:第27回) 千僧駐屯地業務隊

千僧駐屯地業務隊は、兵庫県神戸市及び淡路島全域を担当地域として関係部外団体(東・西神戸自衛隊家族会及び隊友会淡路島支部)と連携した家族支援に取り組んでいく。

兵庫地本の協力を得て家族会月例理事会に参加し、支援要望隊員家族と支援可能な家族会会員とのマッチングを共同で実施している。(写真①)支援要望隊員の95%が他駐屯地所属であるが、隊員の同席した顔合わせも、少しずつではあるが着実に進捗している。自衛隊員を親族に持つ者同士の顔合わせはとて和やかで、近隣に相談できる方の存在に心強く感じているようであった。(写真②)

また、2月には、神戸地区において安否確認訓練を行い、神戸地区自衛隊家族会との連携をより一層深めるとともに、淡路島は自衛隊家族会が所在しないため、隊友会(淡路島支部)の協力を得ながら家族支援態勢を構築する等、家族支援策の実効性の向上を図っている。

今後、駐屯地所在部隊・隊員へ本施策の普及を図るとともに、更なる家族支援策充実のため、関係部外団体との連携強化に努めていく。



写真①



写真②

CSMの提言



第10特殊武器防護隊(守山駐屯地) 先任上級曹長 准陸尉 柿本 陸雄

「今日より明日」

「今日より明日」それは、今日前に進めば何かしら良いことがあるかもしれない。という希望と捉えることが出来る。未来の事だと思えます。過去は変えることが出来ませんが、未来は自身で変えることが出来ます。

皆さんの中には、今が最悪と思ってる人もいらっしゃるでしょう。しかしながら、今が最悪と言う事は、今が一番悪い時であり、前に進めばほんの少し良い事がある可能性があります。今現在を生きる中で、職務面、生活面においていろいろな困難があると思います。しかし困難な時ほど、「今日より明日」は何か良いことがあるのではとプラス思考で臨んでみる事にはいかがでしょうか。

また、職務面における失敗等を思い悩んで頭を抱えている隊員に対しては、取り返しのつかない失敗で無ければ、失敗とは成功するための練習と思えば良いと諭し、前向きに業務に取り組めるような環境を整えて、隊員個人に対する最良の助言を見出しようか。

明日と言う日は、今日よりも未来の事なので、先へ先へと前進し、ほんの少しでも良いから前に進む、進めば「昨日より今日」「今日より明日」となり、ほんの少しの喜びを誰しも掴む事が出来ると思います。気分が落ち込んでいた時にこそ、その小さな良い事を探し自分が笑顔になるよう、明日は今日より楽しくやれるように自分で「今日より明日」に挑戦してみませんか。

地本のチカラ

(連載第11回 :奈良地本)

「女性向け部隊見学」

自衛隊奈良地方協力本部(本部長 前田肇)は、平成31年12月17日(月)、伊丹駐屯地において女性向け部隊見学「医療系・後方支援系職場見学ツアー」を実施した。この企画は、女性の募集に力を入れる中で、募集対象者等に医療系・後方支援系業務を研修させることで、自衛隊は肉體労働が多いというイメージを払拭して、幅広い対象者が志願しやすくなることを目的として実施した。

本見学ツアーには保護者を含む男女7名が参加し、衛生隊、会計隊など戦闘職種以外の職場を見学させ、その業務についての説明を受けた。

衛生隊での、予備自衛官に対する訓練の見学や、会計隊と医務室での課長による説明により、参加者の持つ、自衛隊は肉體労働が多いというイメージを変えることができた。

恒常業務の様子を見学するため、平日に本ツアーを計画したため、参加者が少数であったものの、参加した募集対象者からは「普段隊員がどのような過ごし方をしているかがよく分かり新鮮でした。」「自衛隊を目指すにあたり、何かが向いているのか、自分なりに分析でき参考になった。」等の感想があった。

奈良地本では、後方支援業務の様子を見せる見学に、意義を感じ、今後実施を予定している。



ツアー参加者による職場見学